

論 文 要 旨

学籍番号	81133341	氏 名	杉山 絢子
論文題目： 少子化社会の 相互扶助型集合住宅のシステムデザイン			
(内容の要旨) 我が国の少子高齢化が急速に進む中,社会保障制度を保つためにも我が国の労働力を確保する必要があり,女性の就業は必然となる.しかしながら,我が国における女性の就業は,出産・育児が障害となることが多く,また,女性の就業がさらなる少子化を促していることから,子育て世代の女性が働きやすい社会環境を整えることは重要である. これに対し,政府は,子育ての社会化を呼びかけている.これは,これまで家族や母親のみが担うものとされてきた子育てを,社会全体で担うことを目指すものである.しかしながら,現状のシステムでは,地域社会のコミュニティが希薄となっており,日常生活から子育てを支えることができないことが課題となっている.この課題に対する一つの施策として,集合住宅内のコミュニティにおいて子育てを行うことに関心が集まっているが,実際には我が国では普及に至っていない. そこで,本論文では,子育ての社会化に資する新たな集合住宅システムを構築することを大目的とし,その一助として,コミュニティ内で子育て支援を行っている集合住宅先行事例の課題,及びに就業する母親の要求を調べ,コンセプト設計を行った. 具体的には,まず,コミュニティ内で子育てを行っている既存の集合住宅のステイクホルダーへのヒアリング,また,就業する母親およびに既存の地域支援事業の提供者へのヒアリングを行い,これらをもとにシステム要求を抽出した.このシステム要求から,機能設計,物理設計を行い,子育ての社会化に資する新たな集合住宅システムのコンセプトを構築した. このシステムは,居住者がそれぞれ生活する専用住戸に加え,居住者コミュニティが生活する空間として共用のキッチン,ダイニング,リビングを持つ共用部を持つ集合住宅である.共用部において,母親やその子どもを含む居住者同士の交流や,夕飯の提供,見守り保育の提供等が行われる.これにより,就業する母親が,居住者コミュニティの中で,居住者と共に子育てを行うことが期待できる.システム検証のために,事業性の評価とメインユーザーとなる就業する母親への非構造化インタビューを行った.事業性の評価については,本システムの供給主体を民間会社とし,自己資金で行った場合の資金回収年数を事業モデルごとに検討した.その結果,既存の土地・建物を活用,改修した集合住宅モデル及びにサービス付高齢者住宅併設の集合住宅,また既存の土地を活用した新築のサービス付高齢者住宅併設の集合住宅モデルにおいて,事業性確保の目安となる25年以内に資金回収が見込めることがわかった.また,メインユーザーとなる就業する母親へのインタビューにおいて,就業する母親のニーズに合致したシステムであり,またそれが子どもにとっても良いことである,ということが示された.しかしながら,改善点として,子育て支援に関わる事項として,保育所およびに病児保育の確保が必要であることも示された.これらについて,現状の課題を踏まえた上で,システム内での解決を検討することが主な課題として残った.			
キーワード (5語) 少子高齢化,女性の労働力率,子育て支援,コミュニティ,集合住宅			